

学校教育目標 夢や目標を持ち 未来を拓く 栗原小教育の創造

a ミッション 栗原しぐさ、連携教育、図書館教育を開進させた教育活動にする
「豊かな心を持つ子供の姿」の実現

a ビジョン ○期待される学校、誇れる学校、前進する学校 ○家庭・保・幼・中との連携から「つながる教育」ができる学校 ○栗原のこころ「栗原しぐさ」が根付く学校 ○東通市の核として、情報発信できる学校

尾道市立栗原小学校

評価計画				自己評価					学校関係者評価			改善計画	責任者						
b 中期経営目標	c 短期経営目標	d 目標達成のための方策	e 評価指標	f 目標値	7月 g 達成値	1月 h 達成値	h i 達成度	i 評価	j 結果と課題の説明			k 二次評価 イ ロ ハ		l コメント	m 改善案				
				豊かな「時間」「心」「つながり」で子供を育てる	学びを深める	家庭学習の定着 〈ブロック連携〉	<ul style="list-style-type: none"> 家庭学習を意欲的に取り組み、毎日忘れずに提出できる児童の割合 	90%	98%	90%	100%		A			7月の報告では、下校までに宿題を提出した児童について98%でしたが、1月は少しハードルを上げて朝宿題を提出した児童の割合を見たので、90%に下がっている。	3		<ul style="list-style-type: none"> 家庭での指導が重要であり、大変だと思いが徹底に努力してください。 読書貯金で成果が出ると思います。読書量の増加は国語力アップに繋がります。 本好きが増えていることは非常に良いことです。
100%	98%	93%	93%					B	開始時刻の達成度は5%下がったが、読書量や本が好きだという児童の割合は確実に増えている。ステップタイムについても、どの学年も確実に実施できている。	3	<ul style="list-style-type: none"> 下校までの提出だと休憩時間に落ちて着かなくなるので、1月から取り組んでいる「朝の提出」が望ましいと思います。 休み時間にも本を読んでいる子供が多いというのは大変嬉しいことです。 	<ul style="list-style-type: none"> 朝読書は定着し、本を読むことが好きであるというアンケートでも1学期は81.3%、2学期は87.5%と上昇している。ステップタイムは、学年内でローテーションを組むことで確実に実施することができるようになった。 							
80%	87%	72%	90%					B					あいさつ名人の取組から、あいさつに対する意識が高まってきているが、「立ち止まって、相手の目を見て」について、課題ととらえる児童も多く、より厳しい自己評価となった。	3	<ul style="list-style-type: none"> あいさつ名人の発想は良いです。引き続き粘り強く指導願います。 無言掃除の大切さの意味を指導すると良いでしょう。 校外での実施状況を把握してください。 				
栗原しぐさを中心とした生徒指導規程に基づく一貫指導と評価 〈ブロック連携〉	<ul style="list-style-type: none"> 立ち止まって、相手の目を見て挨拶のできる児童の割合 (児童アンケート) 無言掃除のできる児童の割合 (児童アンケート) 	80%	59%			59%	74%	C	掃除の役割分担や掃除の仕方などの話し合いが掃除途中でなされ、無言掃除にならなかつたとする児童の自己評価が多かった。事前の打ち合わせの重要性を認識させるとともに無言掃除の意義を再度指導し、更に徹底していく。	3	<ul style="list-style-type: none"> 掃除時間前の打合せや目標確認を重要視させる点検活動に取り組み。 生活目標に「感謝して学校をきれいにしよう」を設定し、掃除の徹底を図る。年度末にもあたり物や施設に対する感謝の気持ちを育て、無言で集中して掃除できるよう取り組む。 	<ul style="list-style-type: none"> 「栗原しぐさ委員会」等子供達による自主活動も取り入れた取組も継続してきた。あいさつの質を高めることも大切にしていきたいが、より多くの機会に温かいあいさつができるように、道徳や特活の時間などであいさつの意識について繰り返し指導する。 掃除時間前の打合せや目標確認を重要視させる点検活動に取り組み。 生活目標に「感謝して学校をきれいにしよう」を設定し、掃除の徹底を図る。年度末にもあたり物や施設に対する感謝の気持ちを育て、無言で集中して掃除できるよう取り組む。 							
		生活リズムの定着 〈ブロック連携〉	<ul style="list-style-type: none"> 生活アンケートや自己ふりかえりカードを活用し、アウトメディアの実感をもたせる。 			100%	100%	100%								100%	A	9月の参観日や、懇談会、通信などで、積極的に情報発信をしていったので、生活リズムの定着及びアウトメディアへの実感につながった。また、第2回実態調査を実施した結果から、児童や保護者が意識して家庭でも取り組んだり、保護者の困り感を把握することができた。	3
						共感的人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 学校行事 日々の授業等 	70%					51%	69%	99%	B	全教科での振り返りを教職員が充分意識できていなかったが、7月と比較して意識が高まっている。		
<ul style="list-style-type: none"> アセスの実施による、学級実態把握 学期に一回以上、グループエンカウンター等、仲間作りのエクササイズを実施する。 	100%				100%			100%	100%	A	1月に2回目のアセスを全学年で行い、個別の取組を学年末に向け実施していく。学級での仲間づくりを目指したグループエンカウンターは、それぞれ月に1回程度実施することができた。12月、1月の生活目標を「外で元気に遊ぶ」とし、エクササイズを取り入れることができた。	3	<ul style="list-style-type: none"> 楽しむことが一番です。外遊びの奨励は大いに期待できます。 現代は異年齢の子供の交流を持ちにくい時代です。縦割り活動はおもしろい取組だと思えます。 	<ul style="list-style-type: none"> アセス個別判定を生かし、支援の必要な児童には、きめ細かい支援計画を学級、学年で立てて実施する。 友人サポートの必要な児童には、集団遊びなどを仕組む、仲間づくりの視点で注視し支援していく。 					
	100%	100%	100%		100%			A	縦割り活動に外遊びを加え、児童の自発的な活動の中に異学年との交流を行った。学年に応じたあてを持て、自己肯定感などを高める取組となった。	3					<ul style="list-style-type: none"> 来年度に向けて、児童活動を中心に縦割り班活動を年間行事計画の中に組み込む。活動にある自己評価、相互評価を密にし、お互いに認め合える場としていく。 				
人間性を育てる	共感的人間関係づくり	<ul style="list-style-type: none"> 児童集会や縦割り集会を工夫し、異学年との交流やレクリエーションを学期に二回以上行う。 	100%		100%	100%	100%	A				3		<ul style="list-style-type: none"> 来年度に向けて、児童活動を中心に縦割り班活動を年間行事計画の中に組み込む。活動にある自己評価、相互評価を密にし、お互いに認め合える場としていく。 		高橋			

【自己評価 評価】
A: 100≦(目標達成)
C: 60≦(もう少し) < 80
B: 80≦(ほぼ達成) < 100
D: (できていない) < 60

【外部評価】 イ: 自己評価は適正である。 ロ: 自己評価は適正でない。 ハ: わからない。